Q&A Patent 特許

弁理士法人 藤本パートナーズ　松本 一将◇弁理士

Q

当社と競合他社の知財比較をすることになりました。主に特許と会社情報の比較になりますが、有効な切り口やツールなどがあったら教えてください。

（東京都　S．Y）

A

1．知財比較のためのツールについて

主に特許に着目して競合他社と知財比較を行う際は、「パテントマップ」というツールがよく使われます。「パテントマップ」とは、ある技術内容についての出願状況等を可視化したものです。パテントマップを活用することで、自社と競合他社との出願件数を比較したり、競合他社の技術動向や自社の現在の知財状況を把握したりすることができます。

2．パテントマップの作成方法

パテントマップの作り方を簡単に説明すると、まず特許検索データベースを使って、特許データ（書誌的事項や分類など）を取得します。そして、取得したデータをExcelなどの表計算ソフトで分類・整理し、グラフ化することによって作成できます。

なお、特許検索データベースには、無料で利用可能な特許情報プラットフォーム（J-PlatPat）や、JP-NETなどの有料データベースがあります。一部の有料データベースには、検索結果からパテントマップを自動で作成する機能がついています。

3．パテントマップの使用例について

パテントマップの一例を挙げると、右下図に示すように、縦軸に自社と競合他社の名称、横軸に技術分野における開発アプローチ（材料・用途）等を表示した座標を用いて、座標内の交差する点に出願件数を表示し、件数に応じて大きさが変化する円を配置したものがあります。

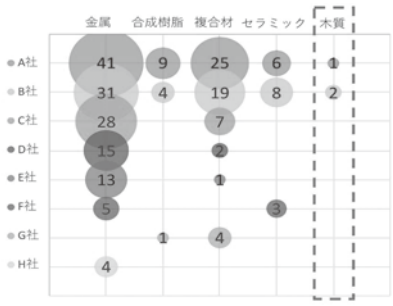
図に示すパテントマップでは、各社の出願件数から、それぞれがどのような技術内容に力を入れているのかを分析できます。

例えば材料開発の分野において、A～F、H社は金属の技術について出願件数が一番多いことから、同分野の競争が激しいことをグラフから読み取れます。一方、木質の技術については、出願件数が一番少ない分野であり、A社とB社のみが出願をしていることや、両者の件数に大差ないことが確認できます。このことをA社の立場になって分析すると、今後競合のB～H社との差別化を図るためには、他社がほとんど着目していない木質の分野に力を入れるべきであることが検討できます。

なお、パテントマップの種類については、例示したグラフ以外にも目的や調査対象等に応じてさまざまな形態が採用されます。

このようにグラフを用いて特許情報を可視化することで、自社と競合他社との知財状況を説明する際に、視覚的に訴えることができるため、パテントマップは会社組織内で知財状況を把握し、理解するうえで有効な手段となり得ます。

パテントマップの一例



（出典：「特許情報分析による中小企業等の支援事例集」）

4．まとめ

以上のことから、自社と競合他社との知財比較にはパテントマップが非常に役立ちます。パテントマップの詳細については、INPITが発行する「特許情報分析による中小企業等の支援事例集」に記載されていますので、ぜひご参照ください。